日本学術会議だより　No.4

21世紀の学術とその動向調査

昭和62年2月　　日本学術会議広報委員会

日本学術会議は，昨年9月27日(日)，初めて日本学術会議主催公開講演会を開催しました。

今回の「日本学術会議だより」では，公開講演会「21世紀の学術」の講演内容と日本学術会議の国際交流事業の一つである二国間学術交流及び来年度に開催される共同主催国際会議についてお知らせします。

また，昨年10月，第101回総会で設置された「地域の研究推進特別委員会」等について内容を紹介します。

公開講演会「21世紀の学術」

本会議は，学術の成果を国民に還元するという日本学術会議法の趣旨に沿うための活動の一環として，9月27日，本会議講堂において，公開講演会「21世紀の学術」を開催した。

これは，第13期日本学術会議主催の初めての公開講演会であったが，各界各層及び一般市民から350人以上が聴講し，成功裡のうちに終了した。

講演は，3人の演者の講演とそれに関連する質疑応答が行われた。

まず最初に，近藤次郎日本学術会議会長が「これからの科学の望ましいあり方」について，1855年王立研究所のファラデーの講演を示しながら，学術会議の講演会の意義を述べるとともに，21世紀の中期に焦点をあてて明暗の予測として，人口増加，CO_2の増加，森林喪失，砂漠化，核戦争の影響，核の冬の問題等について，スライドを交えながら意見を述べられた。そして，最後に科学技術の進歩が新たな職業を労働者に提供するとともに，多くの失敗も相次いで起こっており，そこで科学を望ましい方向に向けることの重要性を力説した。

次に，本明寛日本学術会議第1部長（早稲田大学教授）が「創造性豊かな人材の育成」について，若者の創造性をいかにして養成するかは，指導する側の態度・助言及び自己主張を表現できるムード・環境作りが重要であるとともに，若者の個性を伸ばすためには「見る・聴く」の教育から「聴く・話させる」の教育へ移行させる必要性が述べられ，21世紀に向けて，今，若者をいかにして「教える」かではなく，「育てる」かが重大であると力説した。

最後に，西川哲治日本学術会議第4部会員（高エネルギー物理学研究所長）が「学術研究における国際性」について，演者の専門分野である物理学特に原子核物理学の分野を中心に演者の体験を踏まえて，高エネルギー物理学のみならず基礎科学の研究には国際協力が不可欠であり，国と国とが独自の個体となって対等にぶつかり合うことが重要であると述べられた。そして，現在，日本では言葉のカベが問題であるが，来訪者に対して特別扱いせず，発展途上国からの研究者に対しても温かく見守るだけでなく，自分でやれるように仕向けることが必要であると力説した。

（なお，この講演会の講演内容は，日学双書第2刊として，㈶日本学術協力財団から出版されます。1月末日発行予定）

このような日本学術会議主催の公開講演会は，今後各年度2～3回を目標に開催していくこととしております。

二国間学術交流

本会議は，我が国が科学や技術面において諸外国と交流を深め，それにより我が国の科学技術の整合的な発展に寄与することを目的として，昭和58年度から毎年2か国を選んで代表団を派遣している。58年度にはアメリカ合衆国，マレーシア，59年度にはドイツ連邦共和国，インドネシア共和国，60年度にはスウェーデン王国，タイ王国，そして今年度は11月15日から24日までフランス共和国へ，また，12月8日から14日まで大韓民国へ会長，副会長以下7名ずつの会員を派遣した。

日本学術会議の第13期は，その活動計画にあるとおり，「学術研究の国際性重視と国際的視野の確立」をその活動の重要な柱の一つとしている。今回もその観点に立って訪問国諸機関との間で熱心な協議が行われた。

今回の代表団は，派遣国において科学技術政策や教育を担当する行政機関，研究所，大学等を訪問し，情報交換を行い，さらに訪問先の関係者と両国の学術研究とその問題点について討論を行った。

フランスでは，特に教育の問題について関心が高く，この問題について各地で関係者から種々の意見を聞くとともに情報の交換を行った。さらに近藤会長がコレージュ・ド・フランス及び国立科学研究センターで「日本の最近の科学・技術政策について」講演を行ったが，これに対し，最近のフランスの我が国科学技術政策への関心の高まりを反映し，熱心な意見交換が行われた。

韓国では，最近の産業の発展と科学技術の役割の観点から日本学術会議の役割と活動を含め，我が国の学術体制への質問が多く出されるとともに学術研究の面における協力要請が各訪問先で出され，我が国に対する期待が高いことを深く痛感した。

今回の成果は，代表団の訪問時だけのものでなく，今後の相手国との継続的な科学者の交流，情報，資料の緊密な交換，日本学術会議と相手国機関と相互理解の促進，関係緊密化等の形で永続的に表れるものであり，加えて，これらの成果は，我が国の学術研究の国際交流・協力の基本姿勢及びその抜本的充実方策を検討する場合の大きな資料として役立つものと期待される。

昭和62年度共同主催国際会議

我が国の多数の科学者が世界各国を代表する関係科学者と接し，最近の研究情報を交換し，我が国の科学の向上発達を図り，行政，産業及び国民生活に科学を反映浸透させることを目的として，昭和28年以降毎年おおむね4件の学術関係国際会議を学・協会と共同主催している。近年，国内外において日本開催の要請が強く，また，日本開催国際会議は高い評価を得ている。昭和62年度は次の4国際会議を開催する。

第6回ケムローン世界会議

開催期日　昭和62年5月17日～22日
開催場所　東京都（都市センターホール）
参加者数　国外　300人，国内　600人，計　900人
［36か国］
共催団体　㈳日本化学会

※　この会議は，産業，経済の発展と密接な関係を持つ材料問題と材料，宇宙開発の将来計画と材料，未来のコンピュータと材料等について研究発表と討論を行い，材料工学の発展を図ることを目的としている。

第18回低温物理学国際会議

開催期日　昭和62年8月19日～26日
開催場所　京都市（国立京都国際会館）
参加者数　国外　600人，国内　750人，計　1350人
［38か国］
共催団体　㈳日本物理学会，㈳応用物理学会

※　この会議は，量子液体，量子固体，超伝導，固体の低温物性，低温技術及び応用等を主要題目とし，研究発表と討論を行い，低温物理学の発展を図ることを目的としている。

法哲学・社会哲学国際学会連合第13回世界会議

開催期日　昭和62年8月20日～26日
開催場所　神戸市（神戸国際会議場）
参加者数　国外　150人，国内　300人，計　450人
［22か国］
共催団体　日本法哲学会

※　この会議は，法，文化，科学技術―異文化間の相互理解を主要題目とし，科学技術の時代における法と倫理，現代法哲学・現代法社会哲学の基本問題，東西法文化の比較について研究発表と討論を行い，法哲学・社会哲学の発展を図ることを目的としている。

第6回国際会計教育会議

開催期日　昭和62年10月7日～10日
開催場所　京都市（国立京都国際会館）
参加者数　国外　250人，国内　400人，計　650人
［56か国］
共催団体　日本会計研究学会，日本経済学会連合

※　この会議は，国際理解のための会計教育，会計研究を主要題目とし，研究発表と討論を行い，会計研究の発展を図ることを目的としている。

地域の研究推進特別委員会

日本学術会議は，昨年10月の第101回総会において，「臨時（特別）委員会の設置について（申し合せ）」の一部を改正し，新たに「地域の研究推進特別委員会」を設置することとした。

［目的］

基礎的研究を十分に発展させるためには，研究基盤が広く整備され，各地で特色をもった研究が行われて，研究者の交流，人事の流動なども活発に行われることが必要である。

地域における学術の振興のための学術体制については，その必要性に応じていろいろな方策が考えられているが，当面，地域に個々の大学，研究機関及び産業界の研究者等に広く開かれた共同利用の総合的，学際的研究機関を設置するのが最も実際的で，かつ有効な方策であろうと思われる。このような研究機関は，地域の研究に関する中枢的機能も果たすべきである。

学術研究動向に関するアンケート調査についてのお願い

日本学術会議第3常置委員会では，第13期における活動の一環として学術研究動向の現状分析とその展望を行い，今後の学術研究の発展に寄与するために「学術研究動向に関する白書（仮称）」の作成を主要目標としています。

この白書作成については，第99回総会（昭和60年10月）で決定した第13期活動計画において「学術研究の動向について総合的分析を加え，その長期的な研究計画を総合的レビューのためのいわゆる『学術白書』の作成の可能性を検討する」と述べられており，次の第100回総会（昭和61年4月）において，この白書を作成することが了解されました。これらの総会の決定に基づき，白書の具体的内容，作成手続等について検討を重ねてきた第3常置委員会では，白書作成のための資料を得る目的で，本会議の全会員・研究連絡委員会委員および学術研究団体等に対する学術研究動向に関するアンケート調査を実施することにしました。

今回作成予定の白書は，人文・社会及び自然科学の全学問分野の現状分析と動向の的確な把握，問題点の解明等を行うことを目指していますが，これらのことを適切に行うためには，全会員の英知の結集等が不可欠なことは言うまでもありませんが，更にそれに加えて，現に日本学術会議の存在の基盤を成している全学問領域にわたる約830の学術研究団体及び各専門の学問領域や研究課題ごとに設置された180の研究連絡委員会（委員数2370人）の御協力，御支援が是非とも必要であると考えております。

以上のことを踏まえて，アンケート調査の具体的な手順としては，現在，全会員・研究連絡委員会委員にアンケート調査票を発送済みであり，昭和62年2月28日を締切期日として回答願うこととしております。

また，学術研究団体等に対するアンケート調査は，3月上旬に依頼することにし，回答締切は4月末を予定しております。

白書の内容は，各団体等の研究計画等を考える上で種々活用していただけることと思いますので，アンケート調査票がお手許に届きました学術研究団体等におかれましては，年度末の御多用の折，御面倒をおかけしますが，御協力のほどよろしくお願いいたします。

多数の学・協会の御協力により，「日本学術会議だより」を掲載していただくことができ，ありがとうございます。

なお，御意見・お問い合わせ等がありましたら下記までお寄せください。

〒106　港区六本木7―22―34
日本学術会議広報委員会
（日本学術会議事務局庶務課）
電話　03（403）6291

付着生物研究法

―種類査定・調査法―

付着生物研究会編

A5判・上製・カバー装・158ページ・定価2000円

付着動物の多くは海洋構造物に付着して，その機能を低下させる汚損動物とみなされるが，一方それが存在することはその場が健全な環境であることも指標する．海洋開発が環境との調和を保って行われている限り，構造物には必ず付着生物が着生する．これを学問的あるいは産業的，いずれの視点より取り扱うにしても種類の査定はその第1歩であろう．わが国沿岸域に出現する主要な海産付着動物を取り上げ，その分類体系・形態の特徴を概説し，さらに汚損生物として重要な種の特徴と査定法を解説．またその生態調査の方法である海中構造物・試験板浸漬調査についての手法を紹介する．

①海　綿　類（星野孝治）　②ヒドロ虫類（山田真弓）　③管棲多毛類（今島　実）　④苔　虫　類（馬渡静夫・馬渡峻輔）　⑤フジツボ類（山口寿之）　⑥ホ　ヤ　類（西川輝昭）　⑦付着動物の調査法（梶原　武）

有毒プランクトン

岡市友利・安元　健他著

まひ性貝毒・下痢性貝毒・シガテラ毒などプランクトン→魚介類→ヒト　といった食物連鎖による食中毒が多発し，大きな社会問題になっている．この毒性プランクトン発生・作用機構・毒成分を，食品衛生関係者による対策を考える．　（A5判・136P・定価1600円）

貝毒プランクトン

福代康夫編

ムラサキガイ・カキ・ホタテ・アサリ・コタマガイ等による食中毒事件は例年70件以上にも及び，その対策が急がれる．この貝毒プランクトンの生物学と生態を中心に，広くわが国各水域での毒化現象を追求する研究者によるデータを持寄る．　（A5判・126P・定価1600円）

ヒ素 化学・代謝・毒性

石西　伸・岡部史郎・菊池武昭 編

粉ミルク事件としてヒ素中毒の記憶は生々しい．本書はヒ素の生体影響・生体内動態を医学の立場より，また海草類も多食する日本人にとっての摂取危惧，エレクトロニクス等の利用面，ヒ素分析技法を多方面よりヒ素の実像を探る注目の新書．（A5判・158P・定価2500円）

〒160 東京都新宿区三栄町8／電話 03-359-7371　**恒星社厚生閣**

新　刊

自然の中の藻類の「生きている姿」を知るために

藻類の生態

秋山 優・有賀祐勝
坂本 充・横浜康継　共編

A5判　640頁
定価12800円(〒400円)

1　水界生態系における藻類の役割－有賀祐勝＊2　水界環境と藻類の生理－藤田善彦＊3　藻類の生活圏－秋山優＊4　海洋植物プランクトンの生産生態－有賀祐勝＊5　湖沼における植物プランクトンの生産と動態－坂本充＊6　自然界における藻類の窒素代謝－和田英太郎＊7　植物プランクトンの異常増殖－飯塚昭二＊8　海藻の分布と環境要因－横浜康継＊9　河川底生藻類の生態－小林弘＊10　汽水域の藻類の生態－大野正夫＊11　土壌藻類の生態－秋山優＊12　海氷中の藻類の生態－星合孝男＊13　藻類と水界動物の相互作用－成田哲也＊14　藻のパソジーン－山本鎔子＊15　藻類の細胞外代謝生産物とその生態的役割－大和田紘一＊16　藻類の生活史と生態－中原紘之＊17　藻類群集の構造と多様性－宝月欣二　　各章末に掲載の多数の文献は読者にとって貴重な資料となろう。

シートでみる種の同定・分類

淡水藻類写真集

Photomicrographs of the Fresh-water Algae

山岸高旺・秋山優編集

B5判・各100シート・ルーズリーフ式

第1巻・第2巻　発売中　定価4000円
第3巻・第4巻　発売中　定価5000円　〒350
第5巻(10月刊)　以下継続

生物学史展望

井上清恒著　五千年にわたる生物学の流れを追い，各時代の特質を浮彫にする。分子の世界にまで進んだ生物学の立場を考えるために好適。**定価4800円**

回想のモーリッシュ

—ある自然科学者の人間像—

渋谷　章著　日本の植物学界に大きな足跡を残した自然科学者の生涯をたどる労作。　**定価1800円**

南の動物誌

—熱帯森林に生きる—

渡辺弘之著　熱帯森林を専攻する著者が，熱帯地域の動植物の生活を写真を中心に語る。**定価1300円**

世界の珍草奇木

—植物に見る生命の神秘—

川崎　勉著　自然界の重要な仲間植物群，強い生命力と環境への適応力を感激の筆で語る。**定価1300円**

近　刊

河川の珪藻　B5判

小林　弘著

日本淡水藻図鑑

廣瀬弘幸・山岸高旺編　日本ではじめて創られた本格的な図鑑。淡水藻類の研究者や水に関係する方々にとっては貴重な文献である。**定価36,000円**

藻類学総説

廣瀬弘幸著　藻類の分類と形態を重点に置いて，克明な図により丁寧に解説する。　**定価10000円**

植物組織学

猪野俊平著　植物組織学の定義・内容・発達史から研究方法を幅広く詳述した唯一の書。**定価15000円**

高地植物学

柴田　治著　植物の環境適応について長年研究した著者の成果をまとめた。　**定価5800円**

山歩きアラカルト

—自然の探索ノート—

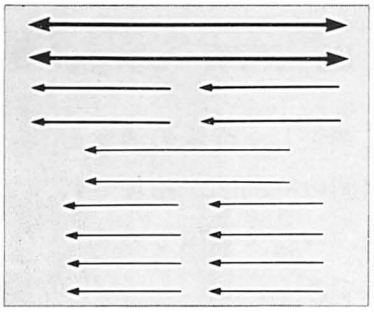
柴田　治著　山野をたのしく歩くための心得帳。とくに山の医学は知っていて便利。　**定価1300円**

内田老鶴圃
東京・文京区大塚3-34-3／Tel 03-945-6781

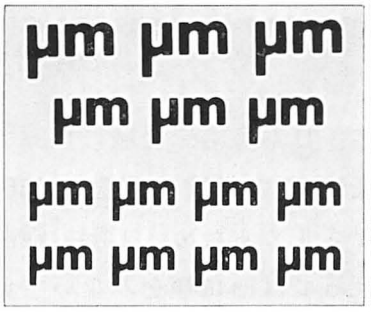
新製品ご案内!!

レタリングシート（ブラック アンド ホワイト）

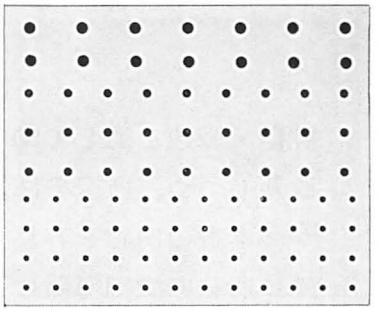
EMI NO.82014



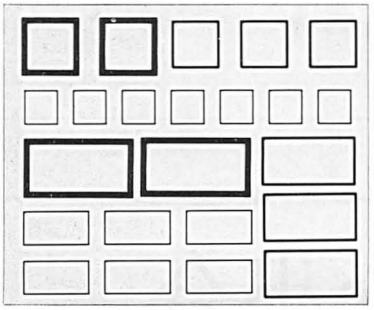
EMI NO.82016



EMI NO.86626

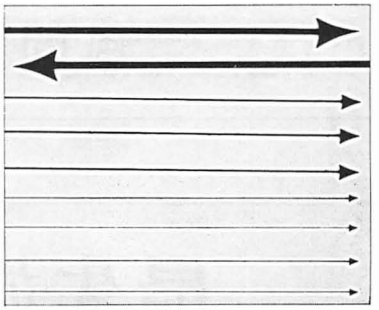


EMI NO.86627



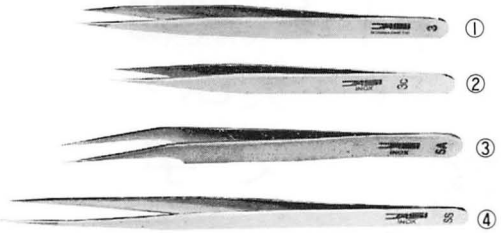
EMI NO.86902

EMI NO.86916



※レタリングシートの総合カタログが出来ました。下記の住所へカタログをご請求下さい。

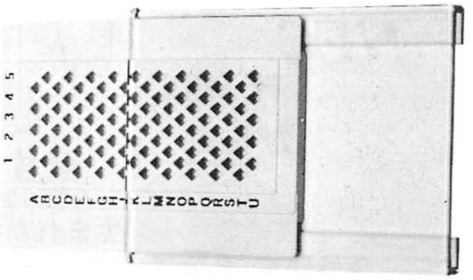
西独製 精密ピンセット



①時計ピンセット　③5型変形ピンセット
②3Cピンセット　④SS型ピンセット

各1本：￥2,200

EMグリッドボックス



1個：￥1,800　10個：￥15,000

EM資材直販センター
〒274 千葉県船橋市三山5-6-1 TEL.0474(75)5783
東京営業所：TEL.03(988)9906

Marine Algae of the Japan Sea

（日本海の海藻）

理学博士　**野田光蔵 著**

'86.12：B5，557頁　￥34,000

戦前・戦後を通して50年、日本海沿岸全域に亘って調査し、従来の通念を改新しつつ、所産の海藻567種の詳細な記述に、364個の解剖図が附加され、かつ本書の内容を容易ならしめるため〝新潟の海藻〟の和文の項もあり、殊に所載の微細海藻に至っては他に類をみない宝典である。

（文部省助成学術図書）

風間書房　東京都千代田区神田神保町1-34
振　替　東京 1-1853

最先端と素敵な出合

データベースでダイナミックプリンティングコミュニケーション

富士通 OASYS

NEC PC-9801

入力装置
ドッド文字

富士通 9450シリーズ　NEC PC-9801

写研

美しい
文　字

生まれかわるデータベース

会員管理・名簿管理・調査票発送・集計・印刷・請求・販売促進・検索

Cコーポレイト Iアイデンティティで企業発展に貢献する

日本印刷出版株式会社

■本　社　〒553 大阪市福島区吉野1丁目2番7号／TEL 06-441-6594(代)
■電算室　〒553 大阪市福島区吉野1丁目3番18号

学 会 出 版 物

下記の出版物をご希望の方に頒布致しますので，学会事務局までお申し込み下さい。（価格は送料を含む）

1. 「藻類」バックナンバー　価格，会員各号1,750円，非会員各号3,000円，30巻4号（創立30周年記念増大号，1—30巻索引付）のみ会員5,000円，非会員7,000円，欠号：1—2号，4巻1．3号，5巻1—2号，6—9巻全号。

2. 「藻類」索引　1—10巻，価格，会員1,500円，非会員2,000円，11—20巻，会員2,000円，非会員3,000円，創立30周年記念「藻類」索引，1—30巻，会員3,000円，非会員4,000円。

3. **山田幸男先生追悼号**　藻類25巻増補．1977．A5版，xxviii+418頁．山田先生の遺影・経歴・業績一覧・追悼文及び内外の藻類学者より寄稿された論文50編（英文26，和文24）を掲載．価格7,000円。

4. **日米科学セミナー記録**　Contributions to the systematics of the benthic marine algae of the North Pacific. I. A. Abbott・黒木宗尚共編。1972．B5版，xiv+280頁，6図版．昭和46年8月に札幌で開催された北太平洋産海藻に関する日米科学セミナーの記録で，20編の研究報告（英文）を掲載。価格4,000円。

5. **北海道周辺のコンブ類と最近の増養殖学的研究**　1977．B5版，65頁。昭和49年9月に札幌で行なわれた日本藻類学会主催「コンブに関する講演会」の記録。4論文と討論の要旨。価格1,000円。

Publications of the Society

Inquiries concerning copies of the following publications should be sent to the Japanese Society of Phycology, c/o **Division of Tropical Agriculture, Faculty of Agriculture, Kyoto University, Kitashirakawa-oiwakecho, Sakyo-ku, Kyoto, 606 Japan.**

1. Back numbers of the Japanese Journal of Phycology (Vols. 1–28, Bulletin of Japanese Society of Phycology). Price, 2,000 Yen per issue for member, or 3,500 Yen per issue for non member, price of Vol. 30, No. 4 (30th Anniversary Issue), with cumulative index (Vols. 1–30), 6,000 Yen for member, or 7,500 Yen for non member. Lack: Vol. 1, Nos. 1–2; Vol. 4, Nos. 1, 3; Vol. 5, Nos. 1–2; Vol. 6–Vol. 9, Nos. 1–3 (incl. postage, surface mail).

2. Index of the Bulletin of Japanese Society of Phycology. Vol. 1 (1953)–Vol. 10 (1962) Price 2,000 Yen for member, 2,500 Yen for non member, Vol. 11 (1963)–Vol. 20 (1972). Price 3,000 Yen for member, 4,000 Yen for non member. Vol. 1 (1953)–Vol. 30 (1982). Price 4,000 Yen for member, 5,000 Yen for non member (incl. postage, surface mail).

3. A Memorial Issue Honouring the late Professor Yukio Yamada (Supplement to Volume 25, the Bulletin of Japanese Society of Phycology). 1977. xxviii+418 pages. This issue includes 50 articles (26 in English, 24 in Japanese with English summary) on phycology, with photographies and list of publications of the late Professor Yukio Yamada. ¥ 8,500 (incl. postaeg, surface mail).

4. Contributions to the Systematics of the Benthic Marine Algae of the North Pacific. Edited by I.A. Abbott and M. Kurogi, 1972. xiv+280 pages, 6 plates. Twenty papers followed by discussions are included, which were presented in the U.S.-Japan Seminar on the North Pacific benthic marine algae, held in Sapporo, Japan, August 13–16, 1971. ¥ 5,000 (incl. postage, surface mail).

5. Recent Studies on the Cultivation of *Laminaria* in Hokkaido (in Japanese). 1977. 65 pages. Four papers followed by discussions are included, which were presented in a symposium on *Laminaria*, sponsored by the Society, held in Sapporo, September 1974. ¥ 1,200 (incl. postage, surface mail).

昭和62年3月5日　印刷
昭和62年3月10日　発行

©1987 Japanese Society of Phycology

禁　転　載
不　許　複　製

Printed by Nippon Insatsu Shuppan Co., Ltd.

編集兼発行者　坪　由　宏
〒657　神戸市灘区鶴甲 1-2-1
神戸大学教養部生物学教室内
Tel. 078-881-1212

印　刷　所　日本印刷出版株式会社
〒553　大阪市福島区吉野 1-2-7

発　行　所　日　本　藻　類　学　会
〒606　京都市左京区北白川追分町
京都大学農学部熱帯農学専攻内
Tel. 075-751-2111
（内線　6355，6357）

本誌の出版費の一部は文部省科学研究費補助金「研究成果公開促進費」による。

Publication of The Japanese Journal of Phycology has been supported in part by a Grant-in-Aid for Publication of Scientific Research Result from the Ministry of Education, Science and Culture, Japan.

第35巻　第1号　昭和62年3月10日

藻　類

目　次

スリマノーパス，V・正置富太郎：日本産紅藻カニノテ属の1新種……（英文）1
トーコ，K. C.・庵谷　晃・有賀祐勝・岩本康三：東京湾における養殖マコンブの成長 ……（英文）10
梶村光男：クロシオメ（褐藻植物門，コンブ科）のタイプ標本の選定……（英文）19
須田昌広：福島県いわき市沿岸の海藻 ……22
前川行幸・喜田和四郎：アラメ及びカジメ群落の生産構造に関する研究 ……34

ノート
西澤一俊・西出英一：第XII回国際海藻シンポジゥムとブラジルの海藻利用 ……41

新刊紹介 ……43

総　説
水田　俊：藻類におけるセルロース性細胞壁 I．構造と形成 ……45

ニュース ……40，44，60
日本藻類学会第11回大会講演要旨 ……61

日　本　藻　類　学　会